

1 - b 情報発信して参加のきっかけづくり

SNS（ソーシャルネットワークシステム）の活用

- ・ SNSとはインターネット上で人と人がつながることのできる会員制のオンラインサービスのことで、若い世代にとって主流の情報交換ツールになっています。
- ・ SNSで町内会のイベント告知や結果報告のほか、回覧文書を電子データ化してアップするなどの活用ができます。
- ・ SNSにはFacebook(フェイスブック)のほかinstagram(インスタグラム)やtwitter(ツイッター)などがあります。
- ・ 現在の役員ではSNSの活用が難しい場合は、若い世代にお願いして情報発信を担ってもらう方法もあります。

SNSでの情報発信のカギ

写真メインで目を引く記事 【清田区ライブヒルズ町内会】



SNSやホームページ、関連団体のリンクを掲載 【中央区山鼻第18町内会】



SNSでの情報発信のカギ

情報発信に若い世代が参画 【清田区ライブヒルズ町内会】

SNSでの情報発信をはじめた約4年前、役員だけではSNSの知識やスキルがなかったため、地域に暮らす女子高生にSNS広報担当になってもらいました。そんな彼女が広報担当者になったきっかけは、幼少期から町内会活動に参加する機会があり、地域への愛着をもっていただけです。何か地域の役に立ちたい、恩返ししたいという気持ちから参画につながったそうです。今では専門学生になった彼女が町内会に関わり続け、引き続き広報担当として活躍してくれているだけでなく、町内会役員にもなってくれました。

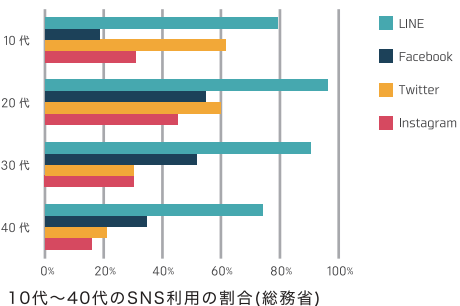
POINT
子どもの頃から町内会活動に参加してもらい、地域に愛着をもってもらうことが将来的な担い手につながります。

Q SNSの効果がわからないので、活用すべきかどうか悩んでいます。

A 地域の若い世代の全てに届くものではないかもしれませんが、町内会の情報を広く発信しているということが大切です。また、新しく転入してくる方がSNSページを見てまちのことを知り、加入してもらったという町内会もあるようです。

Q 町内会の役割や必要性を知ってもらうことは大事ですね。町内会を紹介するリーフレットを作成する場合、こういった内容にすれば効果的なのでしょうか？

A 町内会紹介リーフレットは、「町内会への想いや活動の目的」「活動内容」「会費の使い道」「町内会の範囲MAPおよび防災時の避難場所」「困ったときの連絡先」などが掲載されていることが多いです。



(参考)鉄西第13町内会紹介リーフレット

若い世代とつながる ～実践編～



3 参加から参画へ



②

参加してもらう
(良い印象を持ってもらう)



③

ファンになってもらう
(何度か参加してもらう)



④

運営に関わってもらう

② 参加してもらう → ③ ファンになってもらう

◆若い人も楽しめる行事を企画する

若い女性をターゲットにした取組 【西区宮の沢中央町内会】

町内会では、景観に関する取組の一環としてラベンダーの花植えを行っています。

そのラベンダーを活用し、若い女性の町内会活動への参加のきっかけとなるようクラフト講習会を開催しました。数組の親子連れの参加があり、リースやポプリなどを町内会役員と一緒に作成し、今後の町内会活動への参加のきっかけづくりを行いました。終了後の懇親会もポイントです。



POINT 親子で参加できるものづくり

子連れOKの飲みニケーションが多世代の参加に 【豊平区旭水町内会】

奇数月の第3土曜日に町内会館で「旭水居酒屋」を開催。会館の1階では居酒屋と称して飲み会の場、2階では子どもが遊べる場としてPTAやおやじの会、大学生が子守をサポートしており、子連れでも安心して楽しめる工夫がされています。小さな子どもを預けながらお酒を飲むことができる機会はとても貴重なようで、地域の子育て世代が多く参加し町内会活動を知ってもらい参加の場にもなっています。



POINT 運営側も楽しく！

町内会を



好きになって
もらう

◆若い人にお任せしてみる

若い人たちに企画から運営までお任せしてみてもいいのでしょうか。費用をお渡しして、お金の使い道も考えてもらいましょう。自分たちでやりきるといふ成功体験が、やりがいや楽しさになり、さらなる参画へつながります。お任せする際は、町内会主催ではなく、有志の方が主体的に行事を運営する「実行委員会形式」を用いて役員以外の方も参画しやすい体制にしてみると幅が広がります。色々と言いたい気持ちはあるけど、ぐっと我慢してみることもポイントです。

参加から参画へ
成功のカギ

お祭りの企画から運営までを信頼してお任せ 【白石区共栄第三町内会】

「活動協力員制度」を設置し、30名以上の子育て世代の方に町内会のサポーターを担ってもらっています。町内会では、平成29年から活動協力員に「サマーフェスタ」という夏祭りの企画から運営までをお任せしました。予算の使い道もお任せです。音楽バンドを呼んだり、これまでの役員にはない発想で企画を盛り上げ、2年連続で大盛況でした。この成功体験が更なる参画へのモチベーションにつながっているようです。



POINT

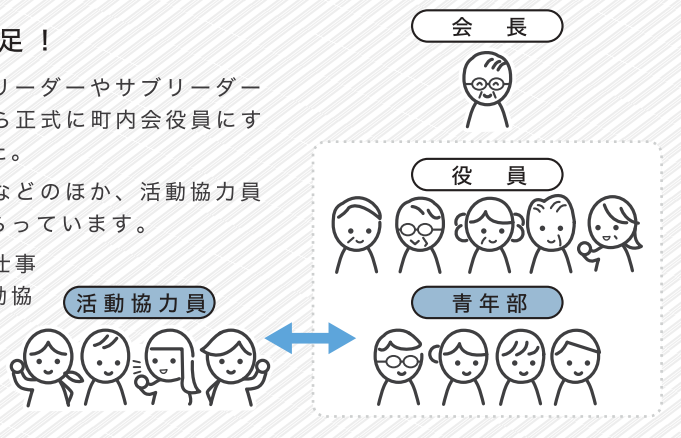
「活動協力員」という組織を確立し、役割やメンバーを明確にしたからこそ、全てお任せできました。実行委員会でもよいので、企画運営を全てお任せするなら組織化することをオススメします。

活動協力員から青年部を発足！

共栄第三町内会では、活動協力員のリーダーやサブリーダーを務めていた方4名を平成30年度から正式に町内会役員にするため、新たに青年部を発足しました。

青年部には、清掃や高齢者の見守りなどのほか、活動協力員の取りまとめや連絡窓口も担ってもらっています。

青年部も現役世代のため、やはり「仕事と家庭が第一」というスタンスは活動協力員と同様にしています。



Q 若い人が参加したくなるイベントを考えるのは役員だけでは難しいです。他の町内会ではどのように企画しているのでしょうか。

A 旭水居酒屋の場合は、会館の活用方法を検討する際に、住民にも集まってもらってアイデア出したことから取組が始まったようです。そのように、アイデア出しのための会を開くという方法もあります。また、既存事業への参加者にアンケート等でアイデアを募るという方法もあります。

Q 町内会の協力員やサポーター、実行委員会など、どう組織化すればよいのでしょうか。

A まずは組織の目的や役割、活動内容を明確にしましょう。メンバーが数名でも集まれば、できることから実践することが大切です。また、組織を動かしていくために重要なのが、メンバー間の連絡手段や町内会との連絡窓口です。若い世代は電話よりLINE(ライン)やメールで連絡を取ることが多いです。

